



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 5月 18日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	鳥井 朋恵

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)	
日本、愛知県犬山市	
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)	
野生動物・動物園科学基礎論	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
令和元年7月17日 ~ 令和元年7月19日 (3日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)	
日本モンキーセンター	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<p>今回の実習では、動物園における展示、教育、標本の作製などについて学習した。</p> <p>研究施設としての役割と、標本や貴重な資料の保存の場としての役割と、社会教育の場としての役割など多くの役割を持つ動物園において、それぞれの役割を果たすために行っている工夫について知ることができた。日本の動物園の課題や限られた空間の利用方法、人員配置をどうするかなど、動物園の様々な課題についても垣間見ることができた。日本の動物園はレクリエーションやエンターテインメントに重きをおいている傾向があり、研究や教育に力を入れることができていないという課題がある。その課題をどう改善していくか、日本モンキーセンターで行われている解決策について、実際に作業を交えつつ学ぶことができた。</p> <p>現在は学生として動物の研究に携わっているが、それを社会教育の場である動物園でどう生かしていくか、役立てていくか、考えるきっかけになった。</p>	
	
樹の幹をなめるワオキツネザル	生後1日のリスザル
<b>6. その他</b> (特記事項など)	